

「クイックO」の商標登録について(2)

新潟県協会
藤島由宇

競技規則の必要性～「藤島私案」の紹介とともに

「スポーツ競技がどのようなものかは、ルールによって決まる。」(本誌 2014 年 2 月号 12 ページより) …クイックOにも「ルール」が必要です。

「定義」の訂正

前号に掲載させていただき「クイックOの商標登録について」の中で、私はその定義として4項目を記載しました。しかし、この内容は定義ではなく、むしろ競技規則の中に記載されるべき内容でありますから、定義としては下記のように訂正させていただきます。

【クイックOの定義】「クイックOとは、限られた競技エリア内で極めて単純化された地図とテレインを用いて行われる、1回あたりの走行距離と所要時間が極めて短いオリエンテーリングの方法である。」

競技規則の必要性

去る3月23日に、地元でクイックOの内容とした大会、「第1回三条市室内オリエンテーリング選手権大会」を開催

しました。その準備段階で困ったのは、「競技規則が無い」ということです。

私が「クイックO」を商標登録した理由は前号で「全国どこでやっても同じ品質や方法でクイックOが行われるようにするため」と申し上げましたが、本当に必要なのは、全国で統一された「ルール」が作られることです。このことは、図らずも前号にて村越真さんにも「スポーツ競技がどのようなものかは、ルールによって決まる。」と触れていたいただいたこともあり、日本でのオリエンテーリングを統括する唯一の団体であるJOAには、クイックOの競技規則の早急なる制定を求めて参りたいと考えています。

競技規則「藤島私案」の紹介

先に触れました三条市室内選手権で適用する「藤島私案」を簡単に紹介します。皆さんのクラブで練習する時の参考になさってください。

(注意) この競技規則私案に反する点が1つでもあれば、それを「クイックO」とは呼ばない…ということではありません。練習や新歓イベント等ではコントロール間の距離や数あるいはコーンの高さを変える、バリアーを設置するなど自由な発想で取り組んでいたって全く問題ありませんが、この競技規則は「競技会はこの方式で行いま

すよ」という事を示すものである…ということをご理解いただければ幸いです。感覚としては「ボウリングのピンは10本で、逆正三角形に並べる」といったような、距離やコート面積、球の大きさなどが統一されている各種球技の考え方に近いです。

○コート

- ・コートは平らな床または地面でなければなりません。
- ・コートには、同一の特徴物を1種類だけ用いる。

○地図

- ・地図は、大きさをA6横(105mm×148mm)とし、容易に折り曲がったり破れたりしない様に加工する。

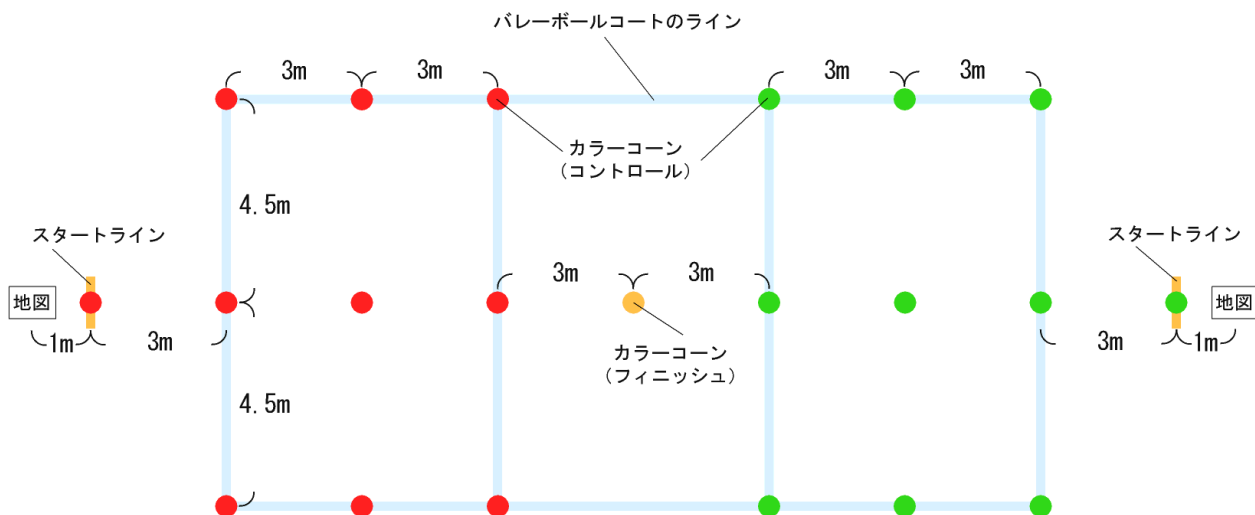
○予選

- ・予選は1選手が各コートで1レースずつ、計2レースを行い、その合計タイムの上位者が決勝に進出する。

○決勝

- ・決勝はトーナメント方式とし、審判の合図により2選手が同時にスタートする。
- ・選手はスタートの合図があったら地図を取り、競技を開始する。
- ・コントロールを正しく順番に通過し、先にフィニッシュに到達した選手に1ポイントを与える。
- ・先に2ポイントを獲得した選手を勝者とする。

クイックOのコート (藤島方式、対戦形式)



- カラーコーンの高さは70cmで、色は図と同じ物(赤、黄、緑)を使用する。
- スタートラインは黄のビニールテープを床面に貼る。ラインの長さは1m、幅は50cmとする。
- 予選などで電子パンチを用いて計時を行う場合は、スタートライン上にカラーコーンを設置する。その場合は1人ずつ計時を行う。

特徴物の数について

三条での練習検証の結果、設置する特徴物の配置数は3×3か3×4が適当であるということが判明しました。そもそもクイックOは、屋外のオリエンテーリングで言えば「隣接コントロールが多数存在する」状況です。特徴物の数を4×4以上にすると「正しいコントロールの場所を端から数えて把握する」という作業が必要になり、素早いパンチや方向転換の動きが損なわれてしまいます。選手が途中で立ち止まってしまうのは、難しすぎるコースであるという事ですのでご注意ください。

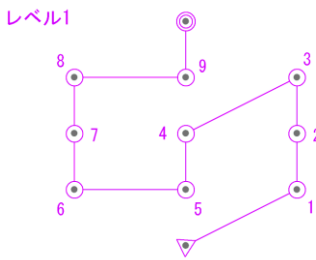
特徴物間の距離について

藤島方式では、特徴物の間隔を縦と横で変えます。さらに特徴物の外にスタートとフィニッシュを配置します。これは、ビギナーの方の整地の理解を容易にするためです。結果的に、バレーボールのコートをガイドに用いると大変都合が良いという事になりました。

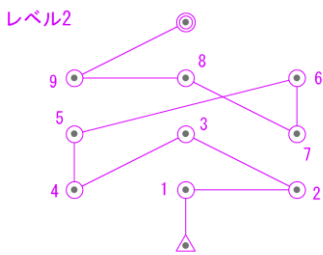
地図について

クラブ等で練習を行う場合は、ビギナーの説明用にレベル1~4と、通常の練習用に5~10の6コースの計10コースもあれば足够了。必要に応じて新しいコースを作ると良いでしょう。また使いまわす事を前提にしている事と、実際に持って廻る際に都合が良いことからラミネート加工をすることをお勧めします。

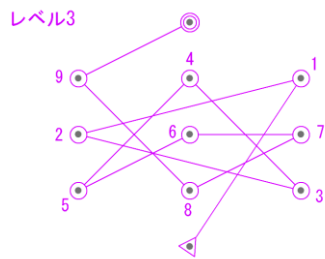
以下は三条で用いているコース図ですので、参考になさってみてください。



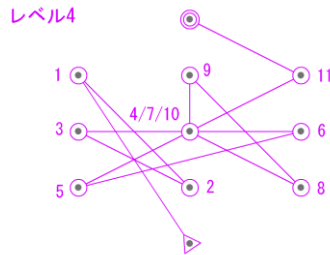
レベル1、極めて単純。



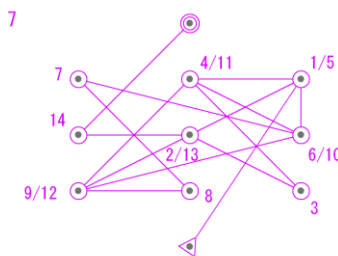
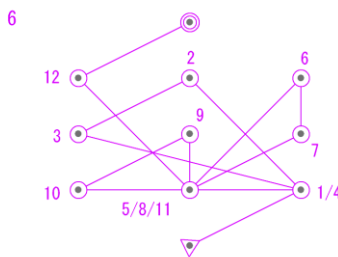
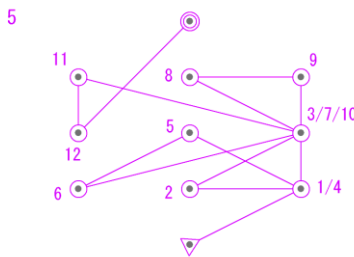
レベル2、1~2箇所の交差がある。



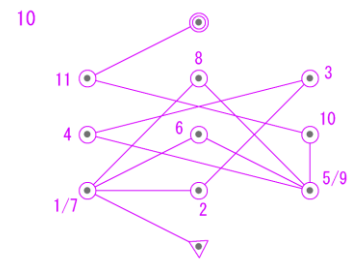
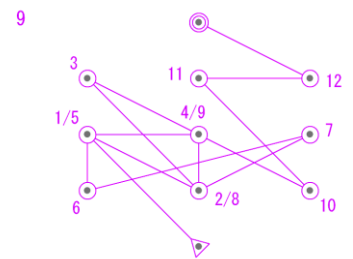
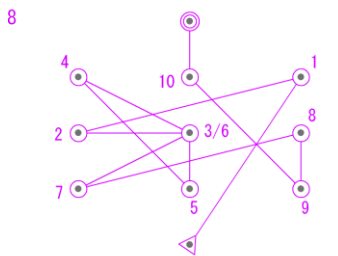
レベル3、交差が多数。



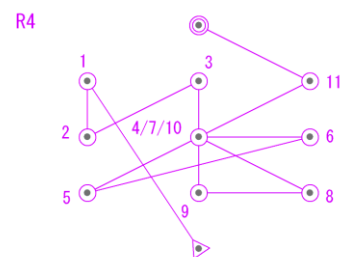
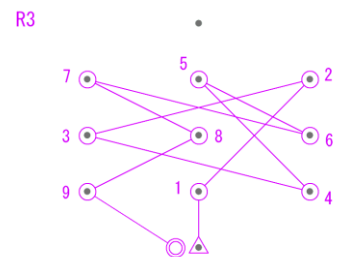
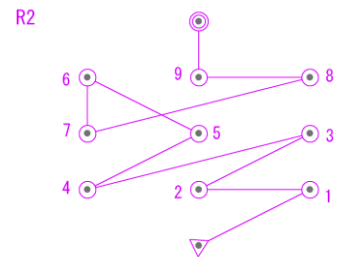
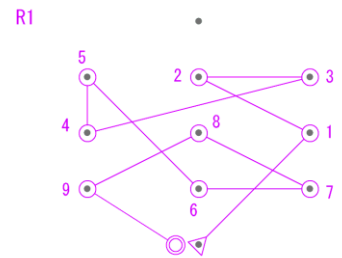
レベル4、ループや複数通過するコントロールがある。



このコース7のように、最終コントロールは独立させてください。



R1~R4は、2人チームでリレー方式を行う時に用います。1走はR1かR3、2走はR2かR4を選んで組み合わせます(R1→R2、R3→R2など)。



(藤島由宇)